

令和4年度 第10回 委員部会運営委員会(定例会)議事録(案)

日 時：令和5年1月26日(木)

会 場：国分寺市本多公民館講座室

出席者：国分寺市(田中)、国立市(野口)、福生市(三浦)、狛江市(内海)、東大和市(新井)

町田市(西澤)、小金井市(吉田)、小平市(鈴木)、日野市(須崎)、昭島市(三木)

事務局：国分寺市公民館(久保、榊、石田) 来年度部会長市国立市職員(志茂)

欠席者：西東京市(西原) (敬称略)

記録：昭島市 三木

1. 開会

田中部会長より

- ・ 市としてはコロナへの規制は緩和の傾向にある。学級閉鎖や公民館の講座がコロナのために中止になることもあったが、気をつけながら我々の持つ人間の力で克服していきたい。
- ・ 国立市公民館職員、志茂さんの出席あり。

2. 報告事項(副部会長の役員会の報告後、意見交換を行ったため、3.協議はリハーサル後)

- ・ 事務局より、配布資料の確認

(1)公民館に関する調査一覧(案)

(2)研究大会資料、第4課題別集会参加者名簿

(3)役割分担表(案)

(4)アンケート等※封筒「こだいら」の資料を当日持参すること。

- ・ 本日よりリハーサル2時半より行う(基調講演祝聴→発表)
- ・ 公民館に関する調査について→来週に改めて、委員、各市にメールで送る。
今後は都公連のHPに掲載する方向。
- ・ 都公連の役員会の報告(野口副部会長より報告)
都公連研究大会へ190数名の申込みあり、全員第1希望に参加。
- ・ 町田のセンター長より通常の会より1時間ほど延長し、大切な話が出た。
→令和4年度で町田市は都公連を退会する。「公民館」という表示を降ろす。
→日野市からも退会したい旨が、町田市に出ている。

↓

2市の退会について職員部会も知らされていなかった。

来年度の体制をどのようにしていくか。総会に向けて町田市の舵取り、引き継ぎが複雑になっていく。都公連、全公連との関わりを考慮していくと、毎年のように役員はできないのが現状である。顧問より、20年ほど前に同様なことが起きたとの話が出た。三多摩で10市が急に抜け、現在の11市に減った。公民館は「社会教育」という法律に守られているのだが、辞めていく市は社会教育をどう捉えているのだろうか？4月の総会で各部会から発言を求められる状況になっている。今後、研究大会もできるのか？教育委員会はどうなっているのか？

→日野市は公連審が開かれ退会の話が出て驚いているが、まだ正式ではない。だが、2月1日に館長部会があるので、館長から打診があるのでないか。教育委員会からの話も今のところ無し。

- 町田市も、「公民館」そのものの表示を辞めるとは正式に聞いていない。今年が町田市の担当だったから終えたら脱会しようとなっていたのか…
- 11市から今後、9市になり、現実的に人手が足りなくなる。協議がされて…ではなく、いきなり、うちの市も辞めようとなるやり方は、いかがなものか？町田市ではセンター会議で決定しHPにも掲載されていると言われてはいるが見当たらない。やる気があればという段階ではなく、負担軽減を考え、職員部会も研究大会もスリム化を図っていかなくては難しいのが現状である。総会までに会議をもち、何を提出するのか、会則を変更するのであれば議決をしなければならない。口頭でなく、町田市から全市に同じ文書を出す方向で動いていくのではないか。財政当局からの話が出てくるだろうが、各市ともにコロナ禍では同様である。4月の総会では、都公連の歴史や意義を顧問団から約1時間の会合を持つので、可能な限り出席してほしい。
- 都公連の役員、運営について事務局になると非常に負担が大きい。「都公連とは一体何なのか？」という疑問を持っていた市が脱会していった。23区、26市、約50の行政があるが、現在11市のみの加盟。市のサイズや人口も異なるため、色々考えさせられることはある。名称を生涯学習センター等に変更したところもある。公民館としての目的、役割をどのように保証していくか？更に親しまれ、人が寄り合えるような根本的なあり方も課題。東京都以外では公民館は小学校区に1館あり、首長も参加するような研究大会であるが、東京都は知事も市長も参加していない。11市になってしまった経緯も歴史も含め、メリット、デメリットについてもオブラートに包まれてしまっている現状である。
- 都公連を脱会しても、公民館として機能している武蔵村山、あきる野、稲城、調布、東村山等がある。公民館という名前をとり、生涯学習センター等と改名しているところもある。法律ができ全国に公民館ができた。ネーミングや業務委託等それぞれの地域の実情がある。魅力のある公民館でなければ存続は危ういのだが、意見交換をし、議論してこなかったことも事実である。都公連に「入って良かった、入るべきだ」が無い。何のための都公連なのか今、議論をしなくてはならない岐路に立っている。引き継ぎや意味合いも一年単位で不十分だったこともあるだろう。
- 東久留米市では公民館は無いが、社会教育的な地域のボランティア、市長等も熱心に参加し活動している。色々な取り組みがある事も含め、都公連も、毎年同じことをやるだけではなく、各市の規模や情勢が異なるのであるから公民館のあり方についても、もっと議論を重ねておけば良かった。
- 3月の委員部会でも今後について協議していく。4月19日(水)の町田市生涯学習センターでの総会に出席を認めてもらうよう部会長から事務局に依頼をする。

4.都公連研究大会のリハーサル

- ・「コロナ禍を乗り越え進化する公民館」池谷美衣子さんの基調講演を視聴(53分)
 - ・助言者：東京学芸大学教育学部准教授 柴田彩千子さん
 - ・事例報告者：山下瑠里子さん「学生から見た公民館」
諏訪玲子さん 地域における学び等、発表内容検討中
- 当日、助言者、発表者事務局 13時から打ち合わせ

3.協議事項、確認事項

- ・第9回議事録承認
- ・名簿再確認・研究大会当日、委員は12時集合・研究大会終了後、有志で反省会

5.その他：各市の情報交換(主なもの)

- 福生市 ・福生市は横田基地があり、国際色豊かで共存しているため、多文化共生をテーマに講座を継続して開催している。外国の方に伝わりやすいように可視化を心がけ、優しい町でありたい。
- 狛江市 ・10月号の空き家についての質問→参加者10人弱、空き家を持っている方、活用等について確認することができた。
- 東大和市 ・シニア向けスマートフォン体験会が地域振興課の枠を超えて始動。自治会へ働きかけ推奨。
・保育室開室50周年パネル展開催。
- 昭島市 ・多文化共生の地域課題講座を夜間に開催。
・公民館活動している団体に広く呼びかけ5月公民館まつり開催(3月まで小ホール改修のため)
- 町田市 ・寿大学 自ら研究し、発表、冊子作成へ意欲的に活動中である。
- 小平市 ・公運審では、講座の進捗状況、令和5年度の事業企画の概要説明がされた。
・3月には、小平オール公民館まつり開催。舞台発表も含め41団体参加予定。
- 小金井市 ・委託化について合同会議。
・地震災害、家庭菜園、地域研究等の講座について。
- 日野市 ・公民館まつりサークル作品展示中。
・子どものための居場所づくりの講座の紹介(無料の学習塾の事例発表会ハイブリッドで開催)
- 国立市 ・答申を検証、市民と公運審の関わりを持つ。市民に対して開いていく。
・群馬県の事例、小学生から高齢者の介護の資格を取得させ啓発している取り組みを全公連で知った。
- 国分寺市 ・学びの楽しさ広がるWi-Fi活用法(もとまち公民館では学生との企画)
大学生が主になり、各グループ活動が豊かになるよう、共に学んでいこうという講座。
・子育て世代のマネープラン・大人がサポーターとして子どもたち主体の子どもまつりを企画
- 東大和市 ・長い道のりであったが、公運審が答申をまとめ、2月に提出予定。
・公民館はわからない、ハードルが高いという声→場所の紹介が主のHPからの脱却が難しい。
- 部会長 ・公民館はPRが上手くない。アピールをどのようにしていくかも今後の課題である。

5.次回 第11回委員部会

日 時：令和5年3月30日(木) 午後2時～

会 場：国分寺市本多公民館 記録：国立市

以上